

Clostridioides difficile 感染症 —近年の話題

Clostridioides difficile 感染症 (CDI) は、代表的な医療関連腸管感染症として知られており、臨床検査技師にとっても大変身近な感染症の1つです。近年は、微生物名の変更、わが国における微生物および臨床疫学情報の蓄積、核酸増幅検査 (NAAT) の実施を前提とした診断方法、新たな治療選択肢の登場など、さまざまな面で新たな知見が得られています。

今回の特集は、近年の CDI に関する話題のポイントを理解し、日常業務の見直しとレベルアップにつなげることを目的にしています。

前半部分は、微生物学的特徴と病態、サーベイランスと臨床疫学、診断検査に関してアップデートが必要な重要知識をバランスよく整理できる内容です。後半部分は、糞便微生物移植を含む治療選択肢と感染対策について、経験豊富な先生方からご解説いただいています。本特集を通して、CDI に関する知識の整理と新たな知見のアップデートを行い、日常診療における対応の見直しと改善につながる一助となるよう願っております。

関谷紀貴

(がん・感染症センター都立駒込病院感染制御科・臨床検査科)